

2050年研究会 ～国土の長期展望に関する勉強会～(第9回)

講演要旨

日 時：平成30年1月23日(火) 13時30分～15時30分

場 所：全日通労働組合大会議室C

講 師：雄谷 良成 氏(社会福祉法人佛子園 理事長)

テーマ：「ごちゃまぜ」共生社会が創る日本の未来

1. はじめに

- 現在の社会は、モノをつくるのが先か、ヒトをつくるのが先か、それらを分けて考えるべきか否かといった議論を進めていくべき局面にあるのではないだろうか。
- 私は、ヒトを集める技術、ヒトづくりから消費が生まれてくると考えている。
- モノをつくってきた社会では、モノをつくるためにヒトが集積してきたという見方があるが、今、日本は未曾有の縮小世界に突入しようとしている。今回の講演では、そんな時代において、ヒトづくりを考える際にどんな切り口があるのか述べてみたい。

2. 福祉、医療とごちゃまぜ

- 『ごちゃまぜ』の場所とは、子ども、若者、高齢者、外国人、障がいがある人、認知症の人、病気の人、そういった様々な人々が、一過性ではなく、日常の暮らしの中で集う場所のことである。

2.1 西圓寺の事例

- 廃寺を活用した福祉拠点「三草二木 西圓寺」では、次のような事例があった。深夜徘徊で家族を悩ませていた認知症のおばあちゃんが、重度心身障がい首の可動域が35度しかない男性に、震える手で一生懸命ゼリーを食べさせようとしていた。男性もそれに応えようと努力しているうちに、それまでの2年間に亘るプロのリハビリによって10度しか改善しなかった首の可動域が、たった3週間で30度も広がった。同時に、認知症のおばあちゃんの徘徊回数も大幅に減少した。福祉のプロを差し置き、認知症患者と重度心身障がい者が関わり合いながら互いが元気になったのである。
- 西圓寺近辺では、2008年から現在にかけて世帯数が3割以上(55→75)増加した。行ったことと言えば、廃寺である西圓寺に色々な人が集まるようにしただけである。新たに移住してきた世帯に移住の理由を聞くと、「居心地が良い。」、「障がいのある人や認知症の人、元気な人、色々な人が居て、最初は驚いたが、なぜか落ち着く。」、そんな答えであった。
- 戦後の保護施策の中で進められた福祉は、高齢者は高齢者、子どもは子ども、障がい者は障がい者といった縦割りの枠組みであった。しかし、そういった仕切りを取り払って、繋げてみると、人々が元気になっていったのである。

2.2 フィジー、ドミニカ共和国の事例

- 経済的に非常に小さいが、幸せ度は高い国、フィジーでは、入所施設が無く、認知症になったとしても、障がいの程度が非常に重いとしても入所施設には入らない。すぐ施設に入る日本とは対照的である。フィジーでは、かわりに認知症も重い障がいも地域で受け止めている。かつて、私が青年海外協力隊として赴任し、非常に貧しい中でも人がつながっている感覚、連帯感を覚えた幸せ度の高い国、ドミニカ共和国においても同じ状況であった。
- フィジーにおいて、「経済が右肩上がりでない以上、社会保障費を上げていくことはできない。では、この先の高齢社会をどう支えていくのか。」といった話をした際、『ごちゃまぜ』の話題になった。色々な人が支え合っているのがフィジーの凄さであるという話の中で、私が「全ての人々が役割 (role) を持っている。」と言ったところ、フィジー人は、「それは少し違う。全ての人々が機能 (function) を持っている。」と反応した。障がいであろうが、認知症であろうが、その人の存在自体が、その状態で、社会に対して何らかの形で機能しているのである。

2.3 福祉、医療の外にある地域

- 福祉や医療は、人の QOL¹を考えた際、住まいや生活、健康維持のサポートといった点しかカバーしていない。我々には、人の人生を福祉や医療で受け止められるという変なおごりみたいなものがある。しかし、上述の認知症の方と重度心身障がいの方との交流の事例をとってみても、それは、福祉や医療の外にある、地域の中で様々な人が関わってこそその化学反応であり、地域の中で起きる交流、情報の動きといったものは福祉や医療ではサポートできないと謙虚に受け止めていかなくてはならない。

3. 地域のつながり

- 動物行動学者のフランス・ドゥ・ヴァールは、人を含めた動物は、動物行動学で言う同一性、同調性、人間の言葉で言う共感力を生まれつき持っていることを示した。
- 社会学者のニコラス・A・クリスタキスは、1 マイル(約 1.6km) 四方に住む人々を対象とした研究で、面識の有無に関わらず幸せが伝播することを示した。宗教家が言う「有縁無縁」や「因果応報」を、データを基に科学的に証明したのである。
- これを地域の中で捉えると、元気な人は幸せを地域に伝播することができる。逆に、高齢者が孤独な独居生活を営んでいたり、障がい者が差別されたりすると、不幸せが伝染する。つまり、独居老人など地域で孤立する人が出現すると、自分が元気であるかに依らず、その人を知っているかに依らず、必ず地域も自分もダウンしていくことを意味している。

- 生きがいのある人ほど生存率が高くなる、人生の目的を感じている人ほど要介護になりにくい、趣味やボランティアで地域活動に参加する人の割合が高いほど地域の要介護認定を受けた人の割合が低い、といったことを示すデータが存在する。
- 福祉や医療は状態が悪化してから対応するものであったが、社会保障費が当てにできない状況となり、介護予防を行うようになってきた。介護予防の中では、筋力トレーニングなどのフィジカルなものが行われてきたが、実は、地域の中で人と関わり、生きがいを見つければ、瞬間に介護予防ができるということを上述のデータは示している。
- 例えば、歌ったり踊ったりするのを嫌がりデイサービスに来なくなってしまう男性のように、福祉の場に出て来ず、家に閉じこもってしまう高齢者が多数存在する。福祉には外に連れ出す強制力は無く、閉じこもった高齢者を福祉で救うことはできない。ところが、市民活動やボランティア、スポーツ、趣味となれば、そういった高齢者も喜んで外に出てくる。
- いかにして地域の力をつけ、人の幸せをつくり、福祉や医療で救えない人を救っていくか考えていく必要がある。

4. 幸せとは何か

- 社会のサステナビリティの根本には QOL、人の暮らしぶりがある。
- 幸せは、「自然資本」、「人的資本」、「社会関係資本」、「経済資本」の4つで考えることができるだろう。
- 自然資本
 - ✓水や空気などの豊かな自然は、当然、人の幸せ感に影響を与える。
- 人的資本
 - ✓学校を卒業した後も、どれくらいの期間に亘って教育を受け続けられるか、という視点は重要である。日本は、義務教育の水準は世界トップクラスであるが、大学を卒業した後に教育を受け続けている人の割合は先進国の中で圧倒的に低い。他方、教育 No.1 国とも言われるフィンランドでは、義務教育の水準は日本よりも低いが、義務教育が終わった後に社会人が学び続けられる制度が圧倒的に充実している。
 - ✓喫煙率や肥満度と幸せ感との間には相関があり、喫煙率が高いほど、肥満度が高いほど、幸せ感は低い。
- 社会関係資本
 - ✓自分の身の回りに住んでいる地域の人を信頼するということが幸せ感に繋がる。日本人は人を信頼する能力に長けていると言われ、地域の中で、襲われたりしないと感じられるような信頼関係の中で生きている。そのような関係性が人、人の幸せに影響を与えるという点をまずは理解していくことが大切である。

✓これは国家や地方自治体にも言えることであり、人は家族や地域、そして地方自治体、国家というものの安定性の中で幸せを感じるということを理解しなくてはならない。そして、国家や自治体が安定的に役割を果たしていくことが重要である。

○経済資本

✓簡単に言えば、人が「食っていけるか」ということである。国家が破綻しないということも人の幸せ感に影響を与える。

5. 日本人はなぜ長寿なのか

○日本の保険制度は世界的には優れている。

○日本の長寿は世界でも突出しており、アメリカと比べても、日本における平均寿命は4年長い。これは、アメリカにおいて癌により死亡する人をゼロにしない限り埋まらない差であり、非常に大きな差であると言える。

○世界各国のジニ係数ⁱⁱを比較すると、北欧が一番低く、日本は中間くらいであると言われるが、ジニ係数を基に日本の格差を測るのは適当でないかもしれない。北欧は個人主義的であるため、強制的に徴収して強制的に再分配を行う必要がある。そのため、消費税を高くし、その中で強制的に福祉、医療等に返していく、再分配しているが、これが不平等ではないとジニ係数では捉えられる。一方で、日本は、数字では見えない形でお互いの助け合いを行い、長生きであり、格差が少ない社会をつくり、ひいては安い消費税を維持してきた。

○日本が2050年を迎えるにあたり、この『ごちゃまぜ』、格差のない社会は大きな利点になるだろう。

6. 『ごちゃまぜ』の価値観

○マズローは当初、欲求5段階説(低次の欲求から順に、生理的欲求、安全欲求、所属欲求、承認欲求、自己実現欲求)を唱えたが、後に、6段階目の欲求として、自己超越欲求(=コミュニティ発展欲求)の存在を主張した。これは、簡単に言えば、地域が良くなって欲しい、人に幸せになって欲しいという欲求である。

○『ごちゃまぜ』の中で住んでいる子どもたちは、この地域が良くなって欲しいという欲求にたどり着く。例えば、『ごちゃまぜ』の場「三草二木 行善寺」で高齢者、障がい者など様々な人々と日常的に交流している子どもたちが、学校の発表において、「疲れた時や悩みがある時は是非行善寺にいらしてください」と自ら発言するのである。

○地域の人自分たちの地域の発展、地域に住む人の幸せに思いを馳せるような取組を行っていかなくては、地域を担いでいく人が居なくなり、ヒトづくり、地域づくりはおろか、モノづくりさえできなくなってしまうのではないだろうか。

ⁱ Quality Of Life:生活の質

ⁱⁱ 所得分配の不平等度を示す指標であり、所得が完全に均等に分配されている場合はジニ係数が0となり、1に近づくほど不平等度が高いことを意味する。